

6-5

データ管理による業務の効率化、標準化に向けた取り組み

ショートステイ

効率化 データ管理

品川区立荏原老人短期入所施設

職種・発表者 ケアワーカー・山木貴大	共同研究者
所在地 東京都品川区荏原2-9-6	共同研究者
TEL : 03-5750-3706	E-mail :
FAX :	URL :

今回の発表の施設 またはサービスの 概要	施設で短期間（1週間程度）お預かりするサービスです。食事・入浴・排泄など日常生活上必要な介助を行います。 定員は30名
----------------------------	--

〈取り組んだ課題〉

全体的な業務の無駄を抽出し、本当に必要な業務か、簡潔な方法かを評価をしていく。ケアワーカーが共通意識で行なえる部分は極力なくし標準化していく。手書き文書は極力避け、データ化し、必要な時にそのデータを再利用できるように努める。紙ベースのファイルは保存用だけに留め、閲覧・編集はパソコンにてファイル管理を行なう。以上のことを遵守することにより、自然発生的に時間が生まれ、ケアワーカーにもご利用者にも無理なく業務改善が進むという切り口である。いわば、業務改善のための準備、又は間接的な業務改善と行うことができるのではないかと。

〈具体的な取り組み〉

- ①ケアワーカーが管理している表やリスト類、入退園に関する情報伝達媒体等を原点に戻り見直す。
- ②他セクションにおける連絡や連携で不都合がないか、改善策はないか意見を求める。
- ③ショートステイの利用までのケアワーカーや相談員の管理や情報の流れをもう一度見直し、EXCEL VBAの使用により無駄や情報入力や記入の重複を軽減する。
- ④入退園管理に要していた時間の平均を把握する。
- ⑤利用が決定してから実際に利用提供するまでに、ケアワーカーが管理しなければならない表やリストが多数あり、全て手書きにて記入していた。はじめの抽選会の際に必要な情報を入力すれば、すべての情報が各種表や管理シートに自動で反映させ、日にちや利用の条件を選択すれば、それを必要な表で印刷することができる。

〈活動の成果と評価〉

業務改善前（書類・表を手書き作成）手書きの平均所要時間を計算すると、入退園に関して費やされる時間の合計が月に3588分（約60時間）年間43056分（約718時間）要していた。（個人差あり）それが業務改善後の平均所要時間を計算すると、入退園に関して費やされる時間の合計が月に1744分（約29時間）年間20928分（約349時間）を要する計算になる。（個人差あり）

情報の管理の無駄をなくすことにより、ケアワーカーにも時間的ゆとりがもて、積極的なレクリエーションの実施を行なえるようになった。

サービス計画書や利用承諾書の記入項目がほとんど自動入力されるため、入退園手続きにかかる時間を短縮でき、ご利用者やご家族のニーズをゆっくりと細やかに聴くことができるようになった。同時に一日に対応できる入退園件数を前年度より減らすことなく、レクリエーションの確実な実施と個別的ケアの時間が持てるようになったと思われる。

〈今後の課題〉

ケアワーカーが割ったシステムは、その現場や現状、細かなニーズに対応した汎用性をもたせることが可能で、俊敏な改善が可能であることがひとつの強みといえることができるであろう。この汎用性と俊敏性は更なるサービス向上のために入退園管理だけではなく、私たちケアワーカーが管理しなければならないすべての項目を瞬時に確認でき、必要な形にしてくれるだろう。

【メモ欄】